

普及項目	増殖
漁業種類等	刺網、流し網
対象魚類	クルマエビ
対象海域	熊本有明海

網田漁協が実施する囲い網施設によるクルマエビ中間育成の技術指導 県北広域本部水産課・香崎 修

【背景・目的】

網田漁協はクルマエビ資源の増加を目的に、中間育成を含めた種苗放流を毎年行っている。当課では、近年不安定となっている中間育成の生残率の向上・安定化を目的として技術的な支援を行っており、今年度は前年度に引き続き将来的な技術移転も併せて目的とした。

【普及の内容・特徴】

（１）中間育成内容

漁業者が設営した 3 基の囲い網に稚エビ（4 月 24 日採卵、網入れ時 48 日齢、P37、平均体長 16.0mm）を約 48 万尾（各網 16 万尾ずつ）收容し、当課が試算した給餌量に基づき、令和元年（2019 年）6 月 10 日～7 月 4 日の 25 日間、漁業者が当番制で育成した（写真 2～3）。なお、前年度に続き網の更新に伴う小型化（直径 24m→20m）が行われ、図 1 の配置となった。

（２）生残率等調査

当課は、中間育成期間中の稚エビの生残率や成長を把握するため、6 月 19 及び 7 月 3 日に調査を実施した。また、網直径の小型化による影響をみるため、6 月 14 及び 29 日に成長調査のみ実施した。将来、事業主体自らが調査を実施できるよう、当日は漁業者及び種苗購入費補助者の宇土市職員にも参加してもらい手順を指導した（写真 4～7）。

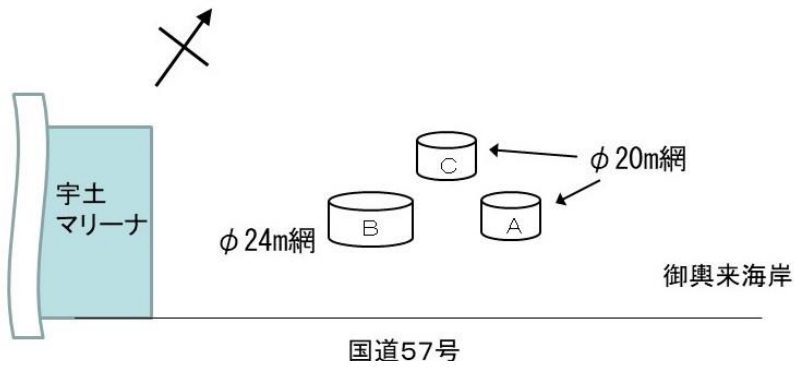
【成果・活用】

（１）中間育成結果

生残尾数は 178 千尾（生残率 37%）と推定された。現在のやり方になった H19 以降では H20 と並び過去 2 番目に悪かった。成長は放流前日の平均体長 38.1mm で H19 以降では最大だった。囲い網ごとの生残率及び成長いずれも目立った違いは確認されなかった。生残率の悪化の原因は不明だが、網入れ後数日間のうちに荒天のため給餌できなかつた日が複数あり、原因の一つと考えられた。また、成長が最も良かった理由は、尾数減による密度効果と給餌率を 15～25%と高めに設定したことの両方が考えられた。

（２）指導内容

漁業者等による成長調査の実践について、昨年度は重量法で誤差が大きかったため、実寸大の写真と照合する方式に変えたところ、現場の推定値と精密測定値がほぼ一致したため、概ね問題ないと思われた。



国道57号
図1 囲い網配置図



写真1 計画打合せ
R1. 5. 22



写真2 育成状況 (餌運搬)



写真3 育成状況 (給餌)



写真4 生残率等調査
(事業主体等による作業体験)



写真5 生残率等調査
(事業主体等による作業体験)

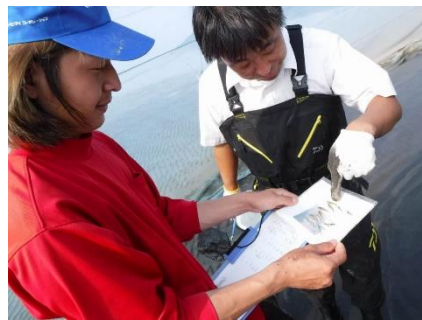


写真6 成長調査
(実寸大写真との照合方式)



写真7 成長調査
(実寸大写真との照合方式)



写真8 事業を実施している網田漁協後継者クラブ



写真9 調査に同行した宇土市職員 (右2名)



写真10 結果打合せ
R1. 8. 7